



見えてきた遣唐使船

復元組み立て進む



平城遷都
1300年
記念事業

来年の平城遷都1300年祭で展示される遣唐使船の組み立てが進み、22日、報道陣に公開された。木造の原寸大で、甲板から下の船体部がほぼ全容を現した。

復元される遣唐使船は長さ約30尺、幅約10尺。喫水線より上部だが、帆先までの高さは約15尺ある。

平城宮跡会場に展示され、甲板上を自由に歩ける話題の船だ。船体部は7ブロックに分けて運び込まれ、ボルトなどで組み立てる作業が続いている。

1月には甲板上の屋

形（やかた）やマストを設置、2月から塗装に入り、3月中旬の完成を予定している。

平城遷都1300年記念事業協会は「進取の精神で海を渡った先人の気概に触れ、国際交流の重要性を見つめ直してもらえれば」と話している。